

2月県議会(2/16～3/16)で もろずみ ともなり **両角 友成** 議員が一般質問を行いました(2月28日)。質問と答弁の要旨を紹介します。



※ 老朽校舎の建替え計画を早期に示せ—養護学校 ※

【両角】古い施設、特に体育館・寄宿舎は対処療法的に修繕してきたが、もう限界だ。松本養護学校は過密化で職員室も確保されていない。建替え計画を早期に示すべき。

【教育長】建築が昭和40年～60年代の学校が多く経年劣化が進んでいる。県の施設管理基本計画にのっとり、すべての特別支援学校(養護学校など)で個別計画を立て検討する。

【両角】基本計画では「その他の学校」とひとくくりだが、障がいを持つ皆さんの学びの整備は特に力を入れるべき分野。第一義的に取り組むべきだ。

※ 卒業生の就職先確保に打開策を一養護学校 ※

【両角】卒業生の居場所づくりは喫緊の課題。就職先確保に打開策を示して欲しい。

【教育長】卒業生の就労は一般企業が4割弱、就労支援事業所が6割強。職業教育の充実や受入企業の拡大が課題で、就労コーディネーター配置等取り組んでいる。

【健康福祉部長】4月から障がい者の法定雇用率が引き上げられ、企業の雇用促進が一層求められる。労働局等と連携して新たな就労分野開拓に取り組む。

※ 生活道路の災害復旧と、迅速に対応できる技術職員の確保・育成を ※

【両角】10月の台風被害で県内、特に松本市内四賀地区で大きな被害が生じ、県道矢室明科線は全面通行止めになっている。悲痛とも言える早期復旧を望む声がある。復旧に2年かかると言うが、県の公務員削減で技術職員が減り、設計業務をコンサルタントに依頼するので時間がかかるという指摘もある。迅速に対応できる技術職員の確保・育成について知事の見解は。

【知事】技術職員の確保・育成は重要。計画的採用に努め、実務講習会も開いている。職員確保、技術向上に取り組む。

※ 住宅の耐震化をどう進めるか ※

【両角】議案説明で知事は、住宅等の耐震化を一層進めると言われた。災害に強い地域づくりが求められる。

【建設部長】耐震改修工事費の補助を60万から100万円に拡充し活用しやすい制度とし、出前講座の開催に加え個別訪問の実施など耐震化を促す取り組みを検討する。

質問を終えて
両角 友成

職員から「私たちに対する
応援演説に聞こえました」と
言われましたが、ひとつでも実
現することを願うものです。